【様式第２号】

保土ケ谷区障害者地域自立支援協議会　　令和６年度　部会年間報告書

部会名：	地域支えあい研修					
部会長（氏名・所属先）	佐藤氏・ほどがや希望の家		副部会長（氏名・所属先）	土屋氏・ダンボの会		
構成機関	相談支援従事者	2	就労支援センター		発達障害者支援センター	
	障害福祉サービス事業者	10	医療機関	1	教育関係機関	
	民間企業		高齢者介護の関係機関		当事者・当事者団体	
	当事者の家族		権利擁護関係団体・者		大学等	
	公共職業安定所		保健所・保健センター		保育所	
	児童相談所		身体障害者相談員		知的障害者相談員	
	民生・児童委員		地域住民代表		区福祉保健センター	1
	基幹相談支援センター	1	生活支援センター	1	地域ケアプラザ	
	社会福祉協議会	1	その他	1	合計	18
年間目標	年２回の研修を開催し、人材育成を図るとともに、法人や事業所の垣根を超えた職員同士の顔の見える関係性を構築できる。					

月	活動内容	会議開催日時
４月		
５月		
６月		
７月	支えあい研修～仲間と共に学び合い、支え合う～　内容：日々の支援に必要な視点などに関する講義、GW 講師：平良氏（保土ケ谷区精神障害者生活支援センター所長）　〇名参加　場所：保土ケ谷公会堂第一会議室	１７日 18時～19時半
８月		
９月		
１０月		
１１月		
１２月		
１月		
２月		
３月	被災地障害者センター横浜ほどがやについて　内容：被災地障害者センターの紹介、被災地での実践報告、GW 講師：島田氏（NPO法人きてん　総務部長）　５７名参加　場所：保土ケ谷公会堂第一会議室	１０日 18時～20時

連携・協働による課題解決の仕組み	部会でできたこと・やったこと ・アンケートに基づく研修テーマの実施。毎回５０名以上の参加があり、盛況である。 ・拠点整備計画の役割を意識した企画運営。
	運営上の課題 ・担い手不足。特にボランティアグループの担い手は顕著。

シェアしたい取組 区作連・ボランティアグループ・自立協との協働での研修会は、誰もが参加しやすい研修内容をテーマに選び、グループワークや交流会も交える事で、新人職員からベテラン職員まで様々な立場の人材が集える企画を実施。そのため区域における「顔の見える関係づくり」継続の核ともなっている。	市域で共有・検討したい課題 「防災」、「人材育成」など、どこの事業所、またどこの地域でも課題となるテーマを洗い出し、市域で課題とそれに対するアイデアを共有できる場があると良い。そこに当事者の生の声も反映できるとなお良し。